第 2011-08 号

恵みと真理のニュース

2011 年 11 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　世の中へ向いていた、心を戻して下さいました。

1984　年、私と旦那は会いました。結婚する前に旦那が約束したことがあります。それは、結婚した後したら教会に行くことでした。その約束で私たちは結婚しました。旦那は約束のとおり、一緒に教会に行くことになりました。しかし、疲れている姿でいつも眠っていました。
旦那の職場のために私たちはサンボン（韓国の地名）へ引っ越ししました。引っ越しした後、近所に住んでいた恵みと真理教会の区域長が私たち夫婦を教会に導いてくれました。区域長と一緒に恵みと真理教会の礼拝に参加しましたが、そのとき私の目に見えた礼拝の光景はとてもすばらしかったです。たくさんの聖徒たちが集まって熱く祈っている光景を見て‘この教会はうわさとおり御言葉と聖霊で満ち溢れる教会なんだな!’と思いました。そこから家族みんなで恵みと真理教会へ通うことになりました。
旦那は教会へ通いながら、信仰生活に大きな変化がおきました。以前、無気力だった姿が見えなくなり、とても頑張っていました。礼拝時間に恵まれながら信仰は成長しました。それで教会学校で奉仕を始めました。私も旦那と一緒に教会学校で奉仕をすることにしました。その中、私は仕事を始めましたが、信仰生活に対する情熱が下がり、区域長を辞めることになりました。それに教会学校の奉仕も辞め、やっと主日礼拝を捧げるぐらいしかできませんでした。私の心のほとんどは、世の中の事でいっぱいでした。そして、形式的に主日礼拝に参加する信仰生活をしながら、約 10 年ぐらい過ごしました。
2008 年 5 月、ある主日でした。雨が降っていましたが、その日は同窓会に参加するため教会にも行かず、友達と車に乗っていました。車は雨で滑って、反対車線の車とぶつかり、車 4 台が追突する事故がおきました。私は意識をなくしていて、起きてみたら全身が血だらけでした。幸なことに検査結果、頭に異常はなく顔だけ 10 センチ深さの傷ができていました。事故の後、不安症と恐慌症さらに不眠症までできました。イライラしたり、焦ったりする症状ができました。夜中には、眠れないためとても辛い時間を過ごしました。
“神様、私を許して下さい。世の中と友になっていた私を受け入れて下さい。私がもっている怖い症状を全部きれいに治して下さい。神様のために働きながら生きていきます。”私は切なく悔い改めの祈りをしました。そして、聖霊様が慰めて下さることを感じられました。その後にも、少し不安になったり、恐怖が近づいてきたりすると“神様、私を助けて下さい。”と祈りました。そうすると、いつの間にか私の心に平安がおとずれてきました。それから、私のすべての心理的な症状がきれいになくなって、熟睡することができました。また、顔の傷も他の人がわからないぐらい回復されました。
2010 年 12 月、新しいところへ引っ越しをして、区域長の役目が回復され、区域の面倒をみることができました。その後に旦那が昇進しましたが、地方に発令されました。それで私は地方にいる旦那の面倒をみるためだからという言い訳でまた、区域長を辞めることにしました。地方にいる旦那のところを通いながら面倒をみることが神様のみこころだと合理化して、神様の働きをゆるがせにしました。
2011 年 8 月、定期検診を受けました。その結果、膵臓、卵巣、胸、甲状腺にこぶができているから、大きな病院に行って精密検査を受けた方がいいと言われました。大学病院に予約をしました。普段、健康には自信があったのに、体あっちこっちにこぶがあるということで心が重くてとても怖かったです。朝から断食しながら祈っている中、旦那が地方に発令された後、ちゃんと祈りもせず、大事な役目である区域長を辞めたことが間違った選択だったのがわかっり、悔い改めの祈りをしました。2 年前、神様のために働くことを決断していたのに、実践できなかったことがとても恥ずかしくて申し訳ない気持ちでした。一ヶ月をまるで一年のように過ごしていて検査当日、緊張しながら病院で検査を受けました。一週間後、検査結果を待っている時間が私にはとても長くて、不安な時間でした。
私の事情を教区の執事さんに話したら、エステルの祈り会に参加して祈ろうと言ってきました。イステル祈り会に参加したら、祈るにはとても良い環境でした。毎日涙を流しながら切なく祈っている中、私が犯したあやまちが思い出して、それを悔い改めました。特に、伝道して下さいと言っていた教区長の勧めでも、形式的に伝道しているふりをしていたことが恥ずかしくて、心が痛かったです。私が死ぬかも知れないと思ったら、私は死んでも救われるが、神様を信じていない人々は滅亡されると思ったら伝道こそいちばん速急なことであることがわかりました。
今までのたくさんのあやまちがわかり、悔い改めの祈りをするとき、心に平安がおとずれてきました。検査結果を見に行きました。医者は血液検査も正常で、こぶも全部陽性だと言ってくれました。その瞬間、感謝の涙が流されました。いたんだ草を折ることもなく、くすぶる灯心を消すこともない愛の神様に感謝し、栄光を捧げます。これからも頑張って伝道しながら、力を尽くして神様を仕えながら生きていきます。

［信仰コラム］　イエス様を信じて仕える恵み。

“福音を説き聞かされていることは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです。”（ヘブライ人への手紙4:2）

イエスキリストを信じる信仰をもつことは珍しいことであります。一種のミステリーなことです。もちろん福音を聞いた人こそ維持的な決断を通して、イエス様を信じ受け入れるようになります。実は、その決断をすることが、自分の意地でできることではないことがわかります。それは神様の恵みのお陰であることです。では、これを証明するいくつの事実を考えてみます。
神様の実存とその能力に対して、とても珍しくてすばらしい体験をした後に、生きておられる神様を認め、賛美した人たちがいました。しかし、彼らは神様を仕えることができませんでした。バビロン帝国の王ネブカドネツァルがその代表的な人物の一人です。彼が建てた金像にひれ伏していないシャデラク、メシャク、アベデネゴを燃えている爐の口に投げ込んで、普段よりも七倍も熱くしました。しかし、彼らの頭の毛も焦げず、上着も以前と変わらず、火のにおいもしませんでした。それで王は“シャデラク、メシャク、アベデネゴの神様を賛美しよう。このように人を救って下さる神は他にないはずだ。”と叫びました。このぐらいなら、その王も改宗を宣言して、主なる神様を拝することが当然なことです。しかし、王は変わらず、偶像を仕えていました。人は神様が行うすばらしい奇跡を体験すると、偶像を捨ててイエスキリストの神様を仕えると思いますが、そうならない人々がとても多いです。今まで生きてきた生活を捨てないで、偶像崇拝の伝統と慣習の奴隷から離れることができません。
神様の御言葉に反抗するため刑罰を科せられ、怒られます。その刑罰が生きておられる神様から来たことを知っていても神様を仕えない人がいます。神様に向けて首のかたく、強情な人として、エジプトのフアラオ王を抜かせません。モーセはイスラエルの民たちを自由にさせようと要求しましたが、彼は断りました。それで、神様はエジプトに再び災難で痛めつけました。全イジプトで、先に生まれた者は人であれ、動物であれ全滅する十番目の災難を受けました。エジプトの全体が喪家になってから、彼はイスラエルの民たちを自由にしてくれました。しかし、変心した王は葦の海に届いたイスラエルの民たちを戦車と騎兵ひきいて、追撃しましたが、彼のすべての軍隊は水の中に沈んでしまいました。神様が行ったことを見た王とエジプトの人々は主なる神様を信じるはずでしたが、そうではありませんでした。相変わらず、太陽神を仕えました。フアラオ王のように、神様に罰を受けて怒られたときには神様の御言葉とおりにしているようにみえても、時間が経つと心がもっとかたくなる人たちがいます。
主の御言葉と権能によって恵まれて神様への関心を見せたり熱心に頑張っていても、後でイエス様を裏切る人たちがいます。イエス様がガリラヤの湖の向こう岸、ゲラサ人の地に入ったとき、墓の間で暮していた人たちに入っていた悪霊を豚の群れの中に移るようにしました。それで、たくさんの豚の群れが海へ突進して全滅しました。これを光景を見たり聞いたりした人たちは、イエス様が私たちの地から去ってほうしいと頼みました。彼らのようにたくさんの人々がイエス様が行った、しるしや不思議を見て、直接体験しましたが、それでもイエス様を信じることはできませんでした。福音を聞いたり、神様の能力を体験したりする機会をたくさんもっていたとしても、神様を信じていない人たち、長年教会へ通いながら奉仕しても、ある日、突然神様から離れてしまう人たちもいます。
神様の御言葉を聞いて従順すること、イエスキリストを信じるようになったことこそが、私たちが体験する一番大きな奇跡であります。みなさんはイエスキリストを信じること、それよりも、大きな奇跡と恵みはないことを悟り、主の中でこれを自慢しながら満足できる人生をおくってくださることをお願い致します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

とても驚くべきに変化された人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：コリント後書 5章17節

クリスチャンはどんな人なのかという質問に対して簡潔に返事したら〈とても驚くべきに変化された人〉と言えます。
その変化の中には感覚器官を通じて認識しにくい変化があるし、わりと易しく認識して分別することができる変化があります。
先週主日には私たちが見て易しく認識しにくい変化に関して話して上げました。
それは魂に起きる変化です。存在の本質に係る変化と所属の変化に対して話しました。この時間はわりと易しく認識される変化に関して話して上げます。

第一、神様が啓示なさった神霊な知識による変化です。

コロサイ３章１０節には**『造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。』**とおっしゃいました。
イエス･キリストを信じて聖霊で蘇られた〈新たな人〉になれば〈知識にまで新しくなる変化〉を経験されます。そして新しい宇宙館、歴史観、価値観、生死観と来世観を持つようになります。
まず、宇宙と生物の起源に対する観念が変化されます。
宇宙は長年の歳月と偶然によってできたし、人間は長年の歳月と偶然の合い作品である単細胞が進化されてきた結果であると言う観念を捨てるようになります。
『始めに神が天地を創造した。』と始まる創世記に根拠した宇宙觀を持つようになって生命体の起源に関する知識を持つようになります。
また、万物は現在のままずっと存在するのではなく神様が定めた時に火に燃えて消え新天新地が渡来するという知識を持つようになります。
ヨハネ黙示録２１章節には**『わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。』**とおっしゃいました。
歴史館が新しくなります。
人類歴史を人間中心に理解して解釈したことが間違った歴史の理解だとを分かります。歴史の主権者は神様だということが分ります。
人類歴史は神様のみこころとご計画につれて進行されるし、神様の主観と攝理の中で叶えられるのを分かります。
価値観が変化されます。価値判断の基準が変わります。
この世で生きるのが天国での生のためできるだけ力をつくすようになります。
そしてすべてのものを福音を伝えてイエス･キリストを愛しながら仕えるための手段と方法にします。
パウロはダメサック路上で復活したイエス･キリストが彼に現われた事実で、その場でイエス様をキリストと神であるのを分かって信じました。
その日、パウロはとても驚くべきに変化されました。その日からパウロは福音を伝えてキリストを愛し仕えるため生きるようになりました。
生死観と来世観が変化されます。
人が生きてて死ねばすべてのことが終わってしまうのではありません。死は自己存在の消滅ではありません。人は魂を持った存在で魂は不滅です。
人は肉身を持った霊的な存在であり、肉身の命が終えれば魂は肉身を離れ去って死の向こう側の世界に渡って行きます。来世は天国と地獄に分けてあります。ふたつの中でどちらに入るのかは、この世の中に生きる間に決められます。
死んだ後には選択の余地がないのです。
神様の選びを受けた人は天国に入るようになります。
今まで申し上げた宇宙館、価値観、生死観と来世観は皆さんがキリストと結ばれてから持つ知識の変化に起因したのです。そういう知識の変化は神様が聖書に啓示なさった御言葉によるのです。

第二、習慣と品性の変化です。

生活の習慣が変わります。
飲酒と吸煙する習慣が直ります。我が身が神様の者だということを分かるので健康をこわす行為を拒否する生活をします。
ぜいたくするか浪費するくせを直します。〈あなたたちの宝を天に積みなさい〉は神様の言葉に従って行うようになります。
歳月を無駄使う習慣を直します。この世を生きる間に行った働きに従って神様の国で受ける誉れと報いを思いながら歳月を惜しむようになります。
怠けて目隠しばかりする習慣を直します。すべての事を神様に捧げるような行いをします。
考えと言葉使いが変わります。信仰と希望と愛の思いと話をするようになります。
また、性格が変わります。気ばやし性格が落ち着く性格に変わります。祈りながら深く考えた後、行動するようになります。
否定的で微温的で悲観的な性格が肯定的で積極的で楽観的な性格に変わります。
よく腹が立つ性格が理解心深い性格に変わります。　荒い性格が柔和な性格に変わります。
高ぶる性格が謙遜な性格に変わります。
真の信者は続いて美しく変化されて行きます。
イエス･キリストを信じた後は信じる以前よりはるかに性格が荒々しく悪化されたという人がいるなら、果たしてその中に新たな命がいるのか疑います。多少の違いはあってもイエスを信じて、新しい命を得た人は毎日生きながらある人は徐々に少しずつ、ある人は速く深く変化があるのは当然なことです。皆さんはすべて速く深く変化している人を願っています。
なぜならば皆さんの中に新たな命が皆さんの中で躍動するからです。

第三、肉体の変化です。

肉体の変化はイエス様の再臨の時にあることでしょう。これは公開された秘密です。
コリンド前書１５章５１−５２節には
『わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。』とおっしゃいました。
啓示された変化の体に対する言葉を整理して見れば次のようです。
朽ちるべき身が朽ちない身に変化されます。
恥じる身が栄えの身に変化されます。
弱いものが、力強いものに変化されます。
肉の体が霊的な体に変化されます。
地に属する者が天に属する者に変化されます。
死ぬべきの身が死なない身に変化されます。
この世の中に存在するすべての万物は絶えず変わっています。美しいのが醜いに変わります。
秩序あるのが無秩序に変わります。命を持ったのが死亡に変わります。
生物の中に生気がある間には細胞が更新されますが結局には死ぬようになります。
アダムの犯罪によって死亡と呪いが宣告されたわけに、この世の中のすべての万物は朽ちるものの掟の下に置かれました。
ところで嬉しくて恵まれた消息が伝えました。
イエス･キリストによる変化の消息です。イエス･キリストと結ばれて経験される変化です。
誰でもイエス･キリストを信じればとても驚くべきに変化された人になります。

これから２週間の説教を要約いたします。クリスチャンはとても驚くべき変化を経験することになります。
第一は、魂に起きる変化です。罪許されて正しい者になり、蘇られ神の子になる変化です。
二番目、所属の変化です。悪魔と世に属した者が神様に属された者になります。
三番目、知識の変化です。神様が与えた啓示の御言葉を受け、新たな知識に変わります。それによって宇宙と生命体の起源に関する観念、価値観、生死観と来世観が変化されます。
四番目、習慣と品性が変化されます。聖書的な考え方と言葉を使うようになります。生活習慣が変わります。明るくて柔和で謙遜な性格に変化されます。
五番目、肉体が変化されます。キリストが再臨なさる時、復活された変化で朽ちない体、栄えの体、強い体、神霊な体、天に属する者、死なない体を着るようになります。
愛する皆さん、イエス･キリストを真心で信じますか。
それなら皆さんは魂にもう驚くべきな変化を着ています。将来皆さんの身も変化されるでしょう。そして、この世を生きる間に非常に望ましい多様な変化を受け続くでしょう。
愛する皆さんは自分の魂にもう起きた変化と将来肉身に起きる変化に対して明らかに認識してください。その変化に対して他の人々にも話して下さい。それが伝道です。
そして、世の中に暮す間に適切に現わさなければならない様々な変化を明らかに現してください。
人々が見て神様に光栄を捧げるようになるでしょう。
愛する皆さん、キリストと結ばれて〈とても驚くべきに変化された者〉という事実さえ思えば心に喜びと感謝と幸福感がいっぱいなりますように祝福し祈ります。